

令和4年1月11日



学校だより

東京都立石神井特別支援学校長
柳澤 由香

一人一人が輝く多様性と包摂性

新しい年が、明けました。学校では、艶やかな赤い実をつけた千両等が、花瓶に飾られました。「先生、十両も入っています。十両の花言葉は、『明日の幸福』って言うんですよ。」と教えていただきました。新型コロナウイルス禍が続く中で、この困難な状況をみんなで力を合わせ、支え合いながら乗り越えて行こうとしている今、この素敵な花言葉、粹な計らいに希望の光となる大きなエネルギーをもらい、みんなの明日の幸福を願って新年のスタートをきりました。

さて、東京都では、児童・生徒がアスリート等との直接交流を通じてスポーツの素晴らしさを実感し、夢や希望をもち続けることができるよう、オリンピックやパラリンピアン等を学校に派遣する「夢・未来プロジェクト」を実施しています。本校でも、今月、東京2020パラリンピック競技大会の陸上女子走り幅跳び（視覚障害T11）で日本新記録（4.74m）で5位になりました高田千明選手を招聘する予定です。感受性豊かな子供たちが、様々なことを学び得る貴重な機会としたいです。

東京2020大会は、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）、一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）、そして、未来につなげよう（未来への継承）」を基本コンセプトとしていました。大会前に開催されたイベントで、陸上の走り幅跳びでロンドン2012大会、リオ2016大会の金メダリストのマルクス・レーム選手が、大会後に実現してほしい東京の姿として、「僕のような義足の人がハーフパンツをはいて普通に歩ける社会になってほしい。『障害』と言われていたものは我々の個性であり、髪の色や背の高さが違うのと同じ。一人一人に個性があるのは素晴らしいことで、これはデメリットではなくメリット、強みとして見てほしい。そして最終的には、日本が多様性のある社会に向けてのロールモデルになってくれたらと思う」と語られました。みんなでレガシーをしっかりと構築していきたいです。

昨年末、紅白歌合戦を観ました。テーマは、「Colorful～カラフル～」。どんな色でも社会を作るうえでは大事で、それぞれの色を認め合ったり、混ざり合ったり、重なり合ったり、あらゆる色が集い、多様性を尊重することで、世の中は明るく、素敵なものになるのではないかと、世の中を少しでもカラフルに彩りたいという想いが込められていたそうです。

本年も、多様性を認め合い、包摂性を高め、彩り豊かな社会で、子供たち一人一人が輝けるよう教育活動を進めてまいります。御理解・御協力の程、よろしくお願いたします。